

## 箕輪町 農業委員会だより

## 農業 極め人

中曽根の養蚕農家の大槻文利さんは、高校卒業後、親の家業を継いで48年。奥様のかつえさんは養蚕をすると文利さんに嫁いで来てくれたそうです。

養蚕は年4回行われて（春・夏・秋・晩秋）、1回に飼育される数は4箱（1箱20,000頭）です。

その蚕に与える桑は120a（3,500坪）の畑で育てています。

桑は1日に4回（朝昼晩夜）与えるので、桑の刈り取りを2回行い、また、濡れた桑は乾かして与えるため手間もかかります。

蚕は松本の（株）高原社から人工飼料で育てた1齢目を仕入れ育てます。家に来て4回休んで（1回や休むごとに脱皮をして大きくなる）まゆを作ります。休む期間は季節によって変わりますが、1日～1日半ほどです。

飼育の適温は25℃ぐらいなので、時期によっては暖房や扇風機などで温度調節をしています。

出来上がったまゆは、JAを通して岡谷の博物館や宮坂製糸所に納められているとのこと。

現在、養蚕農家は、上伊那郡では箕輪町と飯島町で1軒ずつ、岡谷市で1軒あるだけですが、養蚕をしたいと大槻さんのところに養蚕の研修に来る人もいそう、自分達2人が頑張っ出来るまでは養蚕を続けていきたいと話されていました。



大槻文利さん (76)  
かつえさん (70)





田んぼの稲が花咲くころから見かけるようになる“ナガコガネグモ”、畑や雑草地でも見かけますが、主には田んぼでたくさん見ることが出来ます。

体色は黄色と黒の横縞模様、造網性の円形の網を張り、成体になると縦にジグザグの白い隠れ帯を張ります。昆虫が網に近づいてくると網をゆすって獲物を捕らえようとするところはエサを待つ身のおしさでしょうか。

今の時期であればイチモンジヨトウやイナゴ、トンボ等が、秋の収穫時期ではイナゴ、オンブバッタやササキリ、トンボ、時にはコカマキリ等が捕食されています。

良く間違えられるのが「<sup>ジョロウグモ</sup>女郎蜘蛛」。ジョロウグモは人家の軒先や庭木の枝下などに黄色がかった丸く大きな造網をします。体色はナガコガネグモに似ていますが、黄色の体色に薄い黒の縞模様があり、足はナガコガネグモより細長い節間です。大きな網を張るのはメスで 2cm ほどの大きさになり、近くに居候しているオスの体長は半分ぐらいです。メスは成長すると腹部が赤色になります。

クモは4回ほど脱皮して成長しますが、オスの交尾はこの脱皮時期や食事中にそっと近づき、交接しないとメスに食べられてしまいます。

### 特徴

- ・体色は黄色と黒の縞模様
- ・造網性の円形の網を張る
- ・成体になると縦にジグザグの白い隠れ帯を張る

畑や雑草地、主に田んぼで見られる

## ナガコガネグモ



イチモンジヨトウやイナゴ、トンボ等が、時にはコカマキリ等を捕食。

# 目から うろこ編 その二

## 「田んぼの強い味方」

唐澤 金実さん（沢）

### 特徴

- ・体色はコガネグモに似ている
- ・黄色の体色に薄い黒の縞模様
- ・足はナガコガネグモより細長い節間

人家の軒先や庭木の枝下などに網をつくる

## ジョロウグモ

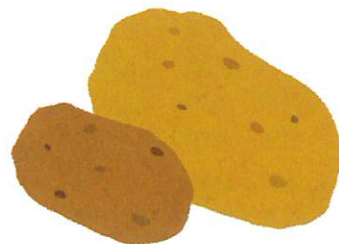


大きな網を張るのは身体の大きなメス。メスは成長すると腹部が赤くなる。



# 地区営農組合活動紹介編

## 南部営農組合



今年は同組合とも  
7月24日に実施しました。

## 北部営農組合



# 「じゃがいも収穫体験」



5つある営農組合の活動の様子を紹介していきます。今回はじゃがいも収穫の様子を紹介、遊休農地解消の一環として地域へ貢献





## 農業委員会の主な活動

遊休農地を荒れ具合に応じて写真のように区分します。本年は8月下旬に農地パトロールを実施しました。荒廃農地については各地区担当者が改善について相談に行きます。

### 1号遊休農地（荒廃農地 A 分類） a



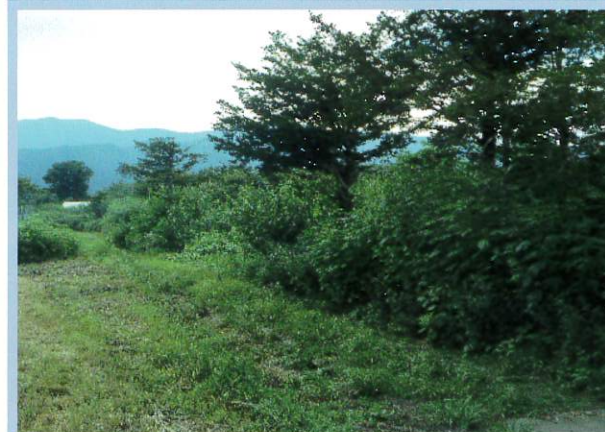
利用されておらず、荒廃度が低度。草を刈り、トラクター等で耕起すれば利用可能な農地となる。

### 1号遊休農地（荒廃農地 A 分類） b



利用されておらず、荒廃度が中度。重機とトラクターを併用すれば利用可能な農地となる。

### 再生利用が困難な農地（荒廃農地 B 分類）



利用されておらず、荒廃度が重度。重機を使用しなければ到底復旧できず、農地としての価値がない。

## 箕輪町農業委員会の各地区担当委員（任期：2024年3月まで）

唐澤 金実	沢上北部1組	79-5668	唐澤 俊秀	中原2組	79-5783	藤森 英雄	木下南城	79-4596	井口 雅文	福与卯の木	79-3801
大槻 憲治	沢15組	79-6116	春日 初(会長代理)	松島西小路	79-4370	小松 孝寿	木下南原	79-5219	金澤 博(農地部長)	長岡大門	79-5428
藤田 久一	大出4組	79-5525	唐澤 健二	松島春日町	79-6467	櫻井 克成	木下一の宮2	70-8536	上田 千志	南小河内北部	79-5711
関 幹子(農政部長)	八乙女1組	79-3894	小野 健一朗	松島南町3	79-0530	赤沼 好秋	富田2組	79-5861	鈴木 健二(会長)	北小河内中村	70-6212
小林 正俊	下古田1組	79-3312	倉田 孝子	木下上一東	79-5172	唐澤 由寛	中曽根1組	79-5010			
唐澤 稔	上古田3組	79-4027	原 美鈴	木下南部	79-3138	藤澤 昭二	三日町上棚	79-4959			

JA上伊那北部営農センター  
農事組合法人みのわ営農 → 79-0636

地区営農組合（5地区）：連絡先は上記の農業委員会の各地区担当委員におたずねください

北部（沢/大出/八乙女/下古田）、中部（上古田/中原/松島）、南部（木下/富田/中曽根）、箕輪（三日町/福与）、東箕輪（長岡/南・北小河内）

箕輪町農業委員会だより 第8号 発行2021年10月1日  
農業委員会事務局（役場 産業振興課内）0265-79-3170

編集後記：養蚕という、かつては盛んだった産業。今は上伊那に2軒。後継者無し。このまま何もしないで、この技術を途絶えさせていいのかなあ。長年培ってきた産業・技術を残していく術はないのでしょうか。（局婆）